

特集

心理学は誰のもの？ 研究と社会の接続を考える

本特集のきっかけは「アンコンシャス・バイアス」だった。これは本来、潜在連合テストで測定されるべき無意識的なバイアスを指すが、内閣府による調査として公表されたものは「…は男性がすべき」といった顕在的認識をたずねるチェックリストで測定された結果であった。これに対し、心理学研究者有志が要望書を提出し、調査結果公表のページに用語使用に関する注釈が掲載されることになった。

一般社会との齟齬は、用語問題に限らない。「心理学」のイメージ自体、疑似科学との境目があやふやで、心理学を冠した占いや根拠のない性格診断が流布している。そもそも心理学はいったい誰のものなのだろうか。本特集では、心理学の誤用問題を出発点としながら、科学哲学者や科学コミュニケーションの専門家の助けを借りつつ、一般社会との接続の中で心理学に関わる者がどのように立ち居振る舞うべきか考えていきたい。

(牛谷智一)